

火山噴火予知連絡会幹事会 議事録

日 時：平成 15 年 10 月 28 日 11 時 00 分～12 時 30 分

場 所：気象庁防災会議室

出席者：会 長：藤井（敏）

副会長：石原

幹 事：植木、渡辺、平林、藤井（直）、斎藤（内閣府：代理）、大城（文科省：代理）、山本
オブザーバー：土井（東大震研）

事務局：竹内、山里、小泉、舟崎、菅野、白土

事務局から委員の交替について

- ・委員名簿を配布し説明。

委員の人事異動に伴う交替 7 月 18 日付

内閣府：布村明彦 参事官 から 上総周平 参事官

河川局：杉浦信男 火山・土石流対策官 から 古賀省三 火山・土石流対策官

前回議事録について

- ・承認済みの議事録を配布

1. 富士山ハザードマップの検討状況について

富士山ハザードマップの住民への説明会を、8 月から 9 月にかけて行い、住民への意見照会を行った。住民からのご意見を基に修正を行い、年内を目処に富士山火山防災協議会へ報告する予定。（内閣府）

<質疑>

- ・今年度中にマップはできるのか。
- ・検討委員会の任務は、試作版の作成までで、今後は、各自治体がそれぞれの地域のマップを作成する。

2. 三宅島帰島プログラム準備検討会の設置について

今年 3 月の「三宅島火山ガスに関する検討会」の検討結果を踏まえ、今後の帰島に向けて必要となる各種対策や課題について検討するため、東京都が中心となり、「三宅島帰島プログラム準備検討会」を設置し、10 月 16 日には第 1 回検討会を開催した。具体的には、三宅島への帰島に向けた、(1) 火山ガスに対する安全確保策、(2) 集落の安全対策、インフラ整備等、(3) 生活再建に関する事項、を検討項目とし、安全・基盤・生活の三分科会を設け、内閣府、東京都、三宅島の担当者が検討し、平成 16 年 3 月を目途に報告書を取りまとめる予定。今後のガスの状況について、火山噴火予知連絡会からも情報を提供していただくなど連携して進めたい。（内閣府）

<質疑>

- ・帰島の判断はこの検討会が行うのか。
- ・この検討会では、帰島判断は行わない。二酸化硫黄の濃度が多数の地点で安定的に平均値が 0.04ppm をクリアすれば帰島の判断を行うことになるのではないかと。法的には三宅村が最終的な判断を行うが、実質的には東京都と三宅村で相談して決めることになるだろう。国としても助言は行っていくし、非常災害対策本部の委員会を 24 日に開催するなど、帰島に向けての支援を行っていく方針。
- ・火山ガス濃度の観測体制は。
- ・現在よりも充実した観測体制を構築する予定。具体的には今後検討していく。
- ・三宅島の民宿の開始はいつ頃からか。
- ・民宿は住民の帰島よりも早く、作業員の受け入れのために、来年には二酸化硫黄濃度の低いところに再開する予

定。全室ではなく食堂などの一部の部屋をクリーンルーム化して、ガス対策を行う予定。

3. 日本活火山総覧第3版編集の進捗状況について

前回の幹事会でも報告したが、活火山総覧第3版は、今年度内に原稿の作成を終了し、来年度に出版を予定している。編集作成作業は、日本気象協会経由で、実務はアジア航測が行う。従来の活火山総覧との違いは、概要に一万年の火山活動を追加、写真を追加、付録としてCD-ROMを添付し、CD-ROMに詳細な文献や観測点のリストをつける予定。観測点の情報提供、概要のご確認等のご協力をお願いする。(事務局)

<質疑>

- ・ランクについての説明をつけるのか。
- ・本編の解説にランク分けの説明を記載する。

4. 三宅島総合観測班の活動状況について

昨年度山頂に近い地点に全磁力の観測点を移動した。今年度内に火口カメラを山頂付近に設置する予定。帰島が本格化するのを念頭に置いて、地権者との調整等もお願いしているところ。気象庁も臨時に設置した観測点の移設再配置を検討している。(事務局)

<質疑>

- ・地権者との調整は、どのように進めているのか。
- ・あまり進んでいないが、今のところトラブルがあったとは聞いていない。総合観測班として情報収集をしていく。
- ・民宿に総合観測班も泊まるようになるのか。
- ・工事関係者は、飯場扱いなので、労働基準監督所から住環境についての指摘を受けている。一つのフロアに6人を超えて宿泊してはならないなど基準が厳しいので、民宿を活用していくことになろう。観測班の取り扱いは未定。
- ・島内の観測点については、必要に応じて、周回道路から上にあげる予定。

5. 火山活動度のレベル化について

10月23日に気象庁長官による記者会見を行い、火山活動度のレベル化について公表した。レベル化は、浅間山、伊豆大島、阿蘇山、雲仙岳、桜島の5火山で、11月4日から運用をはじめ。今後5年を目途に常時観測火山20火山について、火山活動度のレベル化を行う予定。今後ともご協力をお願いする。(事務局)

<質疑>

- ・各センター5つあるので年1火山程度でおこなうのか。
- ・できるところからやればよい。
- ・早めにレベル化を行い問題点を探るべき。
- ・外に出すかどうかは別にして、火山センター内部では、その他の火山も一気にレベル化を行ってはどうか。

6. 第7次火山噴火予知計画について

これまでの火山噴火予知計画の成果を踏まえ、監視観測や常時観測体制の強化整備を、火山の活動度や防災の観点から順次行うとともに、噴火機構の理解や噴火ポテンシャル評価の定量化を図るために、基礎研究を幅広く推進し、さらに、総合的な火山活動の評価に資するために、関係機関の連携強化・関連観測データの有効活用を図ることを基本方針とするとともに、「火山観測研究の強化」、「火山噴火予知高度化のための基礎研究の推進」、「火山噴火予知体制の整備」の三つの柱からなる第7次火山噴火予知計画を策定し、7月24日関係大臣に建議した。

<質疑> なし

7. 火山機動観測・集中総合観測、火山体構造探査等の実施状況及び計画について

<気象庁火山機動観測（2003年から2004年度）について>

従来の現地観測も、機動観測に含まれている。地震活発化で、秋田駒ヶ岳で調査観測を実施している。冬季も観測を続ける予定。新潟焼山は、技術的に難しい点もあり、今年度は一旦撤収するが、来年度は連続観測に向け検討する。桜島の無人ヘリによる観測は、中止した。

<質疑>

- ・GPSの繰り返し観測は、連続観測に加えて行っているのか。
- ・その通り。
- ・富士山の噴気の観測は、いつまで行うのか。
- ・引き続き行い、越冬することも考えている。
- ・桜島の無人ヘリの観測は、何を行う予定だったのか。
- ・火口内の可視観測、熱映像観測を行う予定であった。来年度の実施は未定。
- ・機動観測の測定点を増やすことはできるのか。
- ・可能だが必要性を考慮して行いたい。

<2003年度「草津白根山集中総合観測」について>

浅部の構造を調査することを目的に集中観測を実施した。航空磁気測量については、群馬県と自衛隊に打診したが低空を飛ぶため無理とのことで、民間機を雇って行うこととした。また、航空熱測定は、群馬県の防災ヘリの強力を得て実施した。

<質疑> なし

<2003年度「富士山人工地震探査」について>

富士山を北東-南西方向にはさんだ全長90kmの測線を用いて、深さ10km程度までの2次元速度構造、及び富士山直下の反射面構造を明らかにすることを目的としている。

観測データは、参加機関に配布済み。山頂部は風の影響でノイズレベルが高い。今月末にデータ整理方針を固め、年内に検討を行う予定。

<質疑> なし

<2004年度火山集中総合観測「御嶽山」について>

- ・山頂付近の活動は、噴気活動のみ。地震は山頂にないが、山麓の東～北東に多い。
- ・標高が3000mを超えるため、観測期間が限定される。
- ・地元への啓発活動を積極的に行う。中学校でサマースクールを開催する予定。
- ・2004年合同大会で特別セッションを設ける予定。
- ・群発地震活動を利用した集中観測を行いたい。
- ・深さ2～3kmの電気伝導度が低い。

皆さんに観測についてご提案いただきたい。

<質疑> なし

<平成16年度火山体構造探査 口永良部島実施計画(案)について>

平成16年10月31日～11月4日に、口永良部島新岳の浅部における熱水系の構造の解明を行うことを目的としている。活動度が高まってきており期待が大きい。

150点の観測点を設け、100kgの火薬で発破をかける予定。現在は土地の交渉などを行っている。島内には民宿が少ないため、宿泊場所の交渉を早めに行う必要がある。

<質疑>

- ・気象庁は参加するのか。
- ・福岡センターを中心に参加したい。

8. 連絡会会議の効率化について

連絡会の効率化を目指して、事前に統一見解と全国の火山活動について、検討を行った。検討するに当たって、今回試験的に、火山活動評価についてのまとめを作成し、検討用資料とした。検討内容は、幹事会で最終確認を行い、本会議では、観測データの確認を行うこととしたい。場合によっては、幹事で統一見解の再検討をしたい。席上資料を火山ごとにまとめることについては、かなり早い段階の資料提供が必要であり、今回は見送った。

<質疑>

- ・委員に、もう少し資料提出を早くするようにご協力お願いしてはどうか。
- ・ITの環境が悪いところもあるので、事前検討資料のWeb掲載の容量を数百キロバイト程度にしてほしい。
- ・可能な限り対応したい。
- ・ある程度〆切を早くして、間に合わない資料は、追加資料として別個に提出してはどうか。
- ・火山活動に変化がないといっても活動の認識が違うので、火山活動度のレベルを認識した上で事前検討してはどうか。
- ・全国の火山活動についての手直しは、どのように行うのか。
- ・事前検討以後は、本会議で修正意見をいただくことになる。
- ・今後は、資料の締め切りを早めに設定して、効率化したい。

9. 三宅島統一見解案等の検討

<三宅島統一見解について>

- ・事前の議論である程度考え方はまとまり、原案を作成した。
- ・マグマの貫入があったのかどうか、今後はどうなるのかがポイントである。
- ・地殻変動等これまでの観測結果を火山学的にどう捉えるか、中期的な視点に立って検討することが必要である。
- ・本会議では時間的に余裕がないので、別途会合を持って、議論する場を持つこととする。
- ・原案については了承。

<全国の火山活動案について>

- ・東北の火山について、もう少し表現をふくらませた方がいいように思う。
- ・事務局と調整して案を修正、本会議にのぞむこととする。

10. その他

- ・次回連絡会は、1月27日を第1候補に調整する。